

JOHANNUS

ヨハネスオルガン

取扱説明書

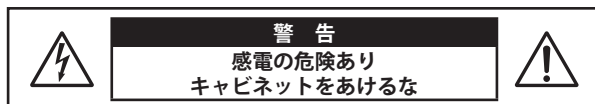
OPUS C-260B オーパス C-260B

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、お子様の安全のために、保護者の方の管理の下、お子様に注意事項を守っていただきますようお願いいたします。

■ 製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：感電防止のため本体の内部を開けないでください。機器の内部にはお客様が修理／交換出来る部品はありません。点検や修理は必ずお買い求めいただいた販売店、またはお近くの弊社フィールドサポート担当までご依頼ください。



このマークは感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

■ 警告と注意、記号表示について



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。



△記号は注意(用心してほしい)を促す内容があることを告げるものです。



○記号は禁止(行ってはいけない)の行為であることを告げるものです。



●記号は強制(必ず実行してほしい)したり、指示する内容があることを告げるものです。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。



警告



電源は必ずAC100Vを使う

電圧の異なる電源を使用しないでください。発火の恐れがあります。

100V以外禁止



電源コードを熱器具に近付けたり、無理に曲げたり重い物を載せたりして傷つけない

コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。



付属の電源コードは本機でのみ使用する

付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。



本機を分解、修理、改造しない



落とさない

本機を落としたり、強い衝撃を加えない

怪我および破損の恐れがあります。



この機器の上に花瓶等の液体の物を置いたり、水にぬれるような使い方をしたりしない
故障・感電・発火の原因になります。



水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
感電の原因になります。



異常が起こった場合、故障した場合は即座に電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜く



異物を入れない

本機の内部に異物を入れないようにする
水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。



照明用のロウソクなどの裸の火を機器の上に置かない



使用禁止

本機を次のような所では使用しない

- ・窓際など直射日光の当たる場所
 - ・暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
 - ・戸外など極端に温度の低い場所
 - ・極端に湿度の高い場所
 - ・砂やホコリの多い場所
 - ・振動の多い場所
 - ・本体の放熱を妨げる様な周囲が囲まれた場所
- 故障の原因になります。

⚠ 注意



電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。



プラグを抜く

落雷の恐れのある時や長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

感電・火災及び故障の原因になる恐れがあります。



電源を切る

コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

本機や接続機器の故障の原因になります。



指をはさまれないよう注意

鍵盤蓋で手や指をはさまないように注意する
鍵盤蓋はゆっくり取り扱ってください。勢いよく動かすと手や指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。



ぶつからない

本機のカド部でけがをしないよう注意する
頭等をぶつけると、けがの原因になります。



手や足を入れない

鍵盤蓋やペダルの下等、本機の間隙に手や足を入れない

はさんだり擦れる恐れがあり、けがの原因になります。



持ち運びは2人で行う



電源プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておく

この機器は電源スイッチを切った状態でも主電源から完全に遮断されているわけではありません。完全に遮断するためには、電源プラグを抜いてください。プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておいてください。



お子様の行動に十分注意してください

お子様が使用する場合や周囲にお子様のいる場所での使用においては、大人の監視のもと十分注意し使用してください。



上に乗らない

本機の上に乗ったり、重い物を乗せたりしない

変形したり、倒れる恐れがあり、故障やけがの原因になります。



使用しない

イスは次のように使用しない

- ・イスを不安定な場所に置かない
- ・イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない
- ・イスには2人以上で座らない
- ・イスに座ったまま高さ調節をしない(調節機能付きの場合)
- ・ネジの緩んだイスに座らない

イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。



不安定な場所に置かない

怪我や破損の恐れがあります。



タコ足配線禁止



ヘッドホンは大音量で長時間使用しない

聴力低下の原因になる恐れがあります。



ディスプレイの表面に爪や鋭利なもの、硬いものなどを強く押し付けない

傷の発生や破損の原因となります。



強く押す、たたくなど故意に強い衝撃をディスプレイに与えない

傷の発生や破損の原因となることがあります。

■ お手入れについて

本体	乾いた柔らかい布で拭いてください。
ベンジンやシンナーで本機を拭かない	色落ちや、変形の原因になります。清掃するときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

* お手入れの際は、電源コードを抜くこと。

■ 保証書について

本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管ください。

■ 銘板について

器種名、製造番号等の情報は、製品下面の銘板に記載されています。

■ 修理について

万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。弊社連絡先は取扱説明書の裏表紙に記載してあります。

目次

1 安全	3
1.1 安全説明	3
1.2 楽器の使用上に関する記号	3
1.3 この説明書で使用する記号	3
1.4 運搬と保管	3
2 設置	4
2.1 設置と接続	4
2.1.1 オルガンの設置	4
2.1.2 譜面台の設置	5
2.2 スライド蓋の開閉	5
2.3 足鍵盤の調整	5
2.4 電源オン	6
3 オルガンの説明	7
3.1 構成部分の外観	7
3.2 パネル部	8
3.3 周辺機器との接続	8
3.4 外部接続	9
4 操作	10
4.1 ボリューム調整	10
4.2 エクスプレッションペダル	10
4.3 オルガン様式	10
4.4 リバーブ（残響）	10
4.5 アンビエンス	11
4.6 ストップ	11
4.7 カプラー	11
4.8 アクセサリー	12
4.9 プリセットメモリー	13
4.10 キャプチャーメモリー	13
4.11 トランスポーズ（移調）	14
4.12 クレッシェンドペダル	14
4.13 クイックアクセス	14
4.13.1 リバーブ設定	14
4.13.2 チューニング	14
4.13.3 オーケストラ音色	15
5 ヨハネスメニュー	16
5.1 アンビエンス	16
5.2 リバーブ	17
5.3 オーケストラ音色	17
5.4 音律	18
5.5 チューニング	18
5.6 ヘッドフォン	18
5.7 ベース/ブリリアンス	19
5.8 デモ曲	19
5.9 システム設定	19
5.9.1 クレッシェンド	20
5.9.2 エクスプレッションペダル	20
5.9.3 キーボード設定	21

5.9.4	オルガン様式初期設定	22
5.9.5	コーラスコントロール	22
5.9.6	風量	22
5.9.7	キーボリュウム	23
5.9.8	Aux-inリバーブ	25
5.9.9	ディスプレイコントラスト	25
5.9.10	データダンプ	25
5.9.11	リセットメニュー	26
5.9.12	バージョン	27
6	メンテナンス、トラブルシューティング、保証	28
6.1	メンテナンス	28
6.1.1	キャビネットのお手入れ	28
6.1.2	鍵盤のお手入れ	28
6.2	不具合	28
6.3	保証	28
7	MIDIインプリメンテーション	29
7.1	MIDIインプリメンテーションチャート	29
7.2	MIDI仕様	30

1 安全

1.1 安全説明



- オルガンを安定した水平面に置きます。
- 100V電源にコンセントを挿します。
- 使用しない時はスイッチを切ってください。
- 湿気の多い場所に置かないでください。
- 液体に濡らさないでください。
- 取扱説明書をお読みいただき、その説明と予防策に従ってください。
- 取扱説明書はオルガンと一緒に保管してください。
- このオルガンはヨハネス社が認めた技術者のみが修理できます。
- このオルガンは静電気に敏感な部品で構成されています。
- ヨハネス社に認められていない技術者が修理した場合、保証が打切られます。

1.2 楽器の使用上に関する記号



注意



感電に注意



静電気に弱いため、取扱い注意

1.3 この説明書で使用する記号



注意または重要な情報



注記

1.4 運搬と保管

オルガンを運んだり、保管するときは次の点に注意してください。

1. 運ぶ前に、オルガンから譜面台と足鍵盤を取り外してください。
2. 相対湿度が40%から60%の場所で保管してください。

2 設置

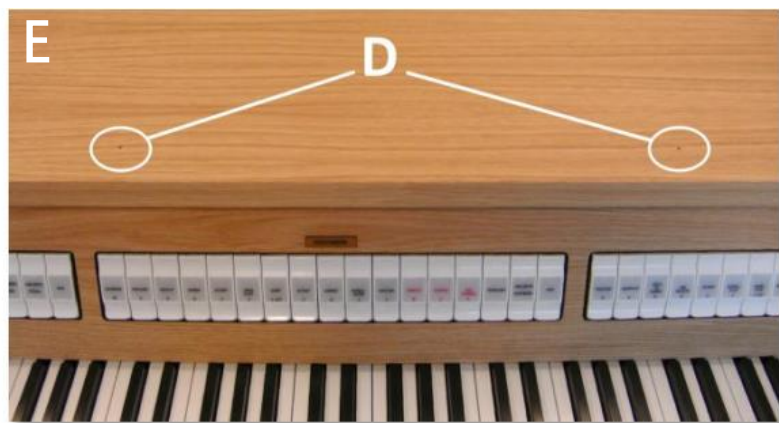
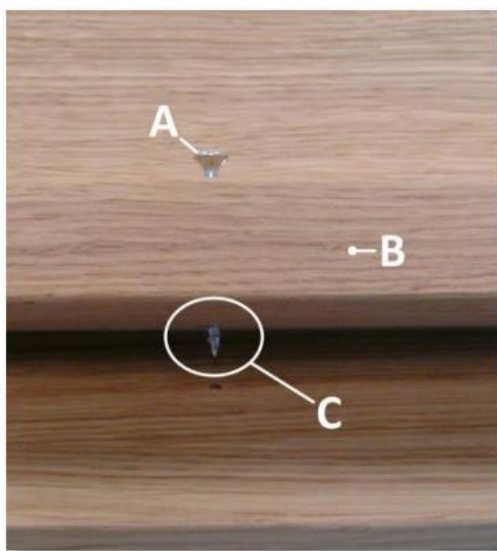
2.1 設置と接続

2.1.1 オルガンの設置



1. しっかりした水平面上に置きます。
2. オルガンの天板上に、譜面台(A)をセットします。 2.1.2項(5ページ)を参照してください。
3. オルガンをわずかに後方に傾け、足鍵盤(D)をオルガンの下にすべり込ませてください。
4. オルガンを足鍵盤の上にセットします。
5. オルガン椅子(C)を足鍵盤(D)をまたいで置きます。
6. 電源電圧にオルガンの(規格)電圧が一致していることを確かめてください。
7. 電圧は棚板下の製造表示シール(B)で確認できます。

2.1.2 譜面台の設置



1. 譜面台上で、付属の丸皿木ネジ(A)を譜面台の楽譜受け棒(B)に回しながら差し込み、木ねじの先が楽譜受け棒(B)の下から2mmほど顔を出すまで(C)ねじ込みます。
2. オルガンの天板(E)の上で、譜面台を固定するための先穴(D)の位置に、譜面台にねじ込んだ木ねじの先を合わせて譜面台を位置決めします。
3. 譜面台をプラスドライバーでしっかり固定します。電動ドライバーの使用はネジ頭がつぶれるので、お勧めしません。

2.2 スライド蓋の開閉

このオルガンには錠付きの木製スライド式鍵盤蓋(スライド蓋)で鍵盤部を閉じることができます。錠は譜面台の後ろ側にあります。

蓋を開けるとき

- 錠に鍵を挿しこんでください。
- 鍵を時計回りに四分の一ほど回します。錠が飛び出てきます。
- スライド蓋を上側にスライドさせると蓋が開きます。



蓋で閉じられてしまう空間内に鍵を放置しないでください。蓋は両手で持ってゆっくり開け閉めしてください。いきおいよく閉めると、指をはさみ、ケガの原因になります。

蓋を閉めるとき

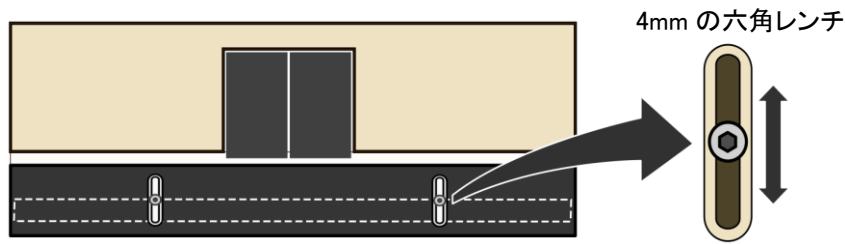
- スライド蓋を下にスライドさせてください。
- スライド蓋をロックする場合は、錠の上側を押し込みます。

2.3 足鍵盤の調整

必要に応じて足鍵盤の発音位置調整を行ってください。最初に足鍵盤のストップをオンにして音が出る状態にしてください。

1. オルガンが安定した水平面に置かれ、足鍵盤が奥まで差し込まれていることを確認してください。各鍵が好みの深さで発音するか確認してください。発音位置が揃っていないかったり、部分的に発音しない場合は、下記の手順に従ってください。

2. ベンチを除けて足鍵盤を抜きます。オルガンをわずかに後方に傾けると良いかもしれません。
3. 下図のように足鍵盤発音位置調整用のネジが左右に見えます。



4. 4mmの六角レンチでネジをわずかに緩めて、発音位置を調整し、また締め直します。上げると発音が早くなり、下げると発音が遅くなります。
5. 再び足鍵盤を戻して発音位置を確認します。
6. 必要に応じて上記の調整を繰り返して、適切な位置に合わせてください。

2.4 電源オン

オルガンの手鍵盤の右側にある ON/OFF ボタンでオルガンの電源を ON にします。

数秒ほどお待ちください。制御機能とセッティングの開始に時間がかかります。

0 ボタンと標準設定のボタンが点灯します。現在設定されている状況がディスプレイに表示されます。

3 オルガンの説明

3.1 構成部分の外観



A スライド鍵盤蓋の錠(譜面台の後ろ側)

B 譜面台

C スライド鍵盤蓋

D 内蔵スピーカー

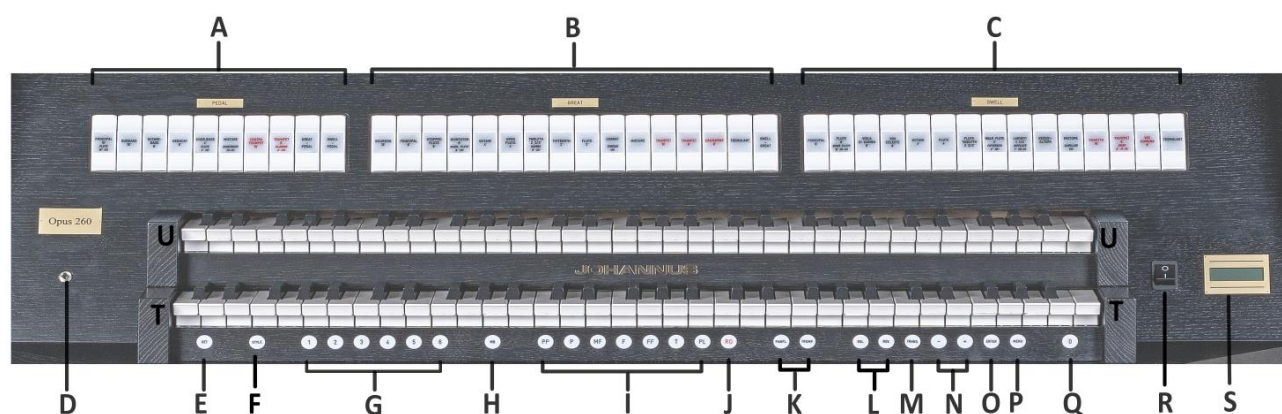
E オルガン椅子

F スウェルペダル

G クレッシェンドペダル

H 足鍵盤

3.2 パネル部



- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| A ペダルストップ, § 4.6 | L VOL.:オルガンボリューム, § 4.1 |
| B グレートストップ, § 4.6 | REV.:リバーブボリューム, § 4.1 |
| C スウェルストップ, § 4.6 | M TRANS.: トランスポーズ(移調), § 4.11 |
| D ヘッドフォン端子, § 3.4 | N - と + ボタン |
| E セット, § 4.10 | O ENTER: エンター |
| F オルガン様式, § 4.3 | P MENU: メニュー, § 5 |
| G キャプチャーメモリー, § 4.10 | Q 0:リコール/リセット, § 4.8 |
| H MB: マニュアルバス, § 4.7 | R 電源スイッチ, § 2.4 |
| I プリセットメモリー, § 4.9 | S 液晶ディスプレイ |
| J RO: リードオフ, § 4.8 | T グレート鍵盤 |
| K PANFL.: パンフルート, § 4.8 | U スウェル鍵盤 |
| TRUMP.: トランペット, § 4.8 | |

3.3 周辺機器との接続

オルガンに関連機器(例えば、MIDI機器)を接続できます。



周辺機器に関しては、その周辺機器メーカーのマニュアルに従ってください。

1. オルガンと関連機器のスイッチをオフにします。
2. 関連機器をオルガンに接続します。
3. 関連機器のスイッチをオンにします。
4. オルガンのスイッチをオンにします。

3.4 外部接続

外部接続端子は手鍵盤の下面の左側にあります。



MIDI IN: 他のMIDI機器からMIDI信号を受信するための入力端子です。

MIDI OUT (またはMIDI SEQ): シーケンサーやパソコンに接続するMIDI出力端子です。

AUX IN: 外部機器をオルガンのアンプに通して鳴らすためのステレオオーディオ入力端子です。

例えばスマホやPCからのオーディオ信号を内蔵スピーカーで鳴らすことができます。この入力信号にリバーブをかけることもできます。詳しくは5.9.8項を参照してください。

AUX OUT: アンプやレコーダーなどの外部デバイスを接続するステレオオーディオ出力端子です。Volume、Bass、Brillianceが個別に調整できます。5.6項と5.7項を参照してください。

ヘッドフォン端子: 手鍵盤の左側にヘッドフォン用の端子があります。この端子はインピーダンス値が30オームかそれ以上のものに適しています(ヘッドフォンの仕様を確認して下さい)。Volume、Bass、Brillianceが個別に調整できます。5.6項と5.7項を参照してください。



ヘッドフォンをヘッドフォン端子に接続すると、オルガンのスピーカーからの音は自動的に消えます。

4 操作

4.1 ボリューム調整

VOL.: オルガンの音量を調整します。VOL.ボタンを押してランプを点灯させ、- / + ボタンで音量を調整します。ENTERボタンを押すと調整した音量が保存されます。

音量はディスプレイのスピーカーアイコンの後に表示されます。
例えば、この例では85%です。

Rom. Center	◀ 85
Tr:0/440	M 1

REV.: リバーブ(残響)の量を調整します。REV.ボタンを押してランプを点灯させ、- / + ボタンでリバーブ量を調整します。ENTERボタンを押すと調整したリバーブ量が保存されます。

イコライザー機能は5.7項を参照してください。

4.2 エクスプレッションペダル

このオルガンにはエクスプレッションペダルは2つあります。ひとつはスウェル鍵盤のためのスウェルペダルに設定され、もうひとつはクレッシェンドペダルに設定されています。ヨハネスメニューを使ってオルガン全体の音量を変化させるゼネラルスウェルに設定の変更が出来ます。「5.9.2 エクスプレッションペダル」(20ページ)を参照してください。

エクスプレッションペダルを使う場合、スウェルストップの音量だけでなく音質も変化します。パイプオルガンのスウェルシャッター効果を再現しています。

4.3 オルガン様式

このオルガンには4つのオルガン様式があります。

- ROM(ロマンティック):旧教会(アムステルダム)のミューラーオルガン
- SYM(シンフォニック):アダマ オルガン(ラールテ)とカヴァイエ=コル オルガン(パリ)
- BAR(バロック):ジルバーマン オルガン(カトリック旧宮廷教会、ドレスデン)
- HIS(ヒストリック):ヒンツ オルガン(ボーフェンケルク、カンペン)

オルガン様式を変更するには、STYLEボタンを押して、- / + ボタンでオルガン様式を選択し、ENTERボタンを押して確定します。選択したオルガン様式はディスプレイのメインメニューに表示されます。

リバーブもオルガン様式に合わせて変更されますが、これは変えることもできます。(「4.4 リバーブ」参照)

4.4 リバーブ (残響)

このオルガンには、12種類の実在する場所のコンボリューションリバーブが搭載されています。リバーブの種類を変更するには、REV.ボタンを押しながらSET(またはENTER)ボタンを押します。

次の12種類のリバーブが、それぞれのオルガン様式ごとに、ヨハネスメニューで選択できます。

- Mossley Hill, Liverpool, UK (モスリーヒル教会、イギリス/リバプール)
- Zuidervermaning, Westzaan, The Netherlands (ザウダーフェルマニン、オランダ/ウェストザーン)
- First UMC, Galveston, U.S.A. (第一統一メソジスト教会、アメリカ/ガルベストン)
- Concert Hall, Worcester, U.S.A. (コンサートホール、アメリカ/ウースター)
- Frognerkirke, Oslo, Norway (フロググナー教会、ノルウェー/オスロ)
- St. Maartenskerk, Tiel, The Netherlands (聖マールテンス教会、オランダ/ティール)
- Holy Name Church, Manchester, UK (聖名教会、イギリス/マンチェスター)
- Oude kerk, Amsterdam, The Netherlands (旧教会、オランダ/アムステルダム)
- Kruisverheffingskerk, Raalte, The Netherlands (十字高揚教会、オランダ/ラールテ)
- Notre Dame, Paris, France (ノートルダム、フランス/パリ)
- Bovenkerk, Kampen, The Netherlands (ボーフェンケルク、オランダ/カンペン)
- Hofkirche, Dresden, Germany (カトリック旧宮廷教会、ドイツ/ドレスデン)

オルガン様式にリバーブを設定する場合は「5.2 リバーブ」を参照してください。

4.5 アンビエンス

アンビエンスは、コンボリユーシヨンリバーブと連携して、教会内のどの位置でオルガンの音を聴いているかを選択できる機能です。次の4つから選択できます。

- Console: オルガンの演奏台
- Front: 教会の前方
- Center: 教会の中央
- Rear: 教会の後方

アンビエンスはヨハネスメニューで設定します。「5.1 アンビエンス」を参照

してください。設定した位置はディスプレイのオルガン様式の後に表示されます。この例ではコンソールです。

Rom.	Cons.	Cr	0
Tr:0/440		M	1

4.6 ストップ

ストップは、タブレットスイッチ、プリセットメモリーボタン、キャプチャーメモリーボタン、クレッシェンドペダルで作動させます。タブレットスイッチのランプが点灯しているストップが発音します。

ストップは、次の3つのグループに分かれています。

Pedal: ペダル鍵盤(足鍵盤)に関するストップです。

Great: グレート鍵盤(下鍵盤)に関するストップです。

Swell: スウェル鍵盤(上鍵盤)に関するストップです。

4.7 カプラー

マニュアルカプラー:

SWELL - GREAT: スウェル鍵盤の全鍵をグレート鍵盤に連結します。

ペダルカプラー:

GREAT - PEDAL: グレート鍵盤の全鍵をペダル鍵盤に連結します。

SWELL - PEDAL: スウェル鍵盤の全鍵をペダル鍵盤に連結します。

マニュアルバス: MB

ペダルの単音をグレート鍵盤に連結します。グレート鍵盤で弾いている一番低い鍵盤だけがペダルからグレートに連結されます。

もし和音を弾いていて、一番下の鍵盤を離れたときはマニュアルバス機能により連結していたペダル音は、次に低い鍵が押されるまで消音します。これは低音のジャンピングを防ぐためです。

MBボタンで、マニュアルバスを作動させます。



低音の重複発音を防ぐために、足鍵盤を使用されている間はマニュアルバスをオフにしておくことをお勧めします。

4.8 アクセサリー

リードオフ (RO):

リードオフは全リードストップを一斉に消す効果です。このボタンがオンの間、リードストップは全て発音しません。このボタンをオフにすると、ボタンを押す前のリードストップの状態に戻ります。

ROボタンでリードオフを作動させます。

パンフルート(PANFL)、トランペット(TRUMP):

PANFL.ボタンやTRUMP.ボタンでオーケストラ音色をオンにします。

パンフルートとトランペットを特定の鍵盤に割り当てる

パンフルート音色を演奏する鍵盤を設定するには、SETボタンとPANFL.ボタンを同時に押します。次にパンフルート音色を演奏したい鍵盤(グレート、またはスウェル)の任意の1鍵を押します。この間ディスプレイには音色名が表示されています。トランペットも同様の手順で設定できます。この場合、SETボタンとTRUMP.ボタンを同時に押した後に、2つの鍵盤の中から任意の1鍵を押します。

リコール/リセット (0):

0ボタンで2通りのレジストレーションのキャンセルができます。

1. 短く0ボタンを押す: 直前の操作をキャンセルします。
2. やや長めに0ボタンを押す: 全てのレジストレーションをキャンセルします。

4.9 プリセットメモリー

プリセットメモリーを呼び出すにはPP・・・T、PLボタンを押します。これら7つのメモリーは、予め工場出荷時にプリセットされており、静かなピアノシモから強いトゥッティや古典的なプレヌムまで、適切なストップの組合せをメモリーしています。

プリセットメモリーの呼び出し:

プリセットメモリーボタンPP・・・T、またはPLを押します。発音するストップのランプが点灯します。

プリセットメモリーの変更:



プリセットメモリーの変更をすると、それまでに記憶されていたセッティングは失われますのでご注意ください。



プリセットメモリーにはどのようなセッティングもできますが、ボタンの文字に合ったセッティングをお勧めします。例えばPPボタンにはフォルテのセッティングではなく、ピアノシモ音色をセッティングすることをお勧めします。

1. 希望するストップを選びます。
2. SETボタンを押しながら希望するプリセットメモリーボタン (PP・・・T PL) のいずれかを押します。
3. SETボタンを離します。

4.10 キャプチャーメモリー:

キャプチャーメモリーを使えば、ボタン一押しで、レジストレーションを再現できます。

キャプチャーメモリーには、125のレベルがあります。これらのレベルはディスプレイにM1～M125のように表示されます。各レベルにそれぞれ6個 (1～6) のメモリーボタンがあります。750のキャプチャーメモリーが空きの状態で用意されていて、演奏者がプログラムできるようになっています。

Rom. Center Cr 0
Tr:0/440 M 1

キャプチャーメモリーの設定:



キャプチャーメモリーの変更をすると、それまでに記憶されていたセッティングは失われますのでご注意ください。

1. 希望するストップを選びます。
2. SETボタンを押しながら、- / + ボタンでメモリーするレベル(1～125)の1つを選びます (ディスプレイに表示されます)。
3. SETボタンを押しながら、希望する番号のボタン(1～6)を押します。
4. SETボタンを離します。

キャプチャーメモリーの呼び出し:

1. SETボタンを押しながら、- / + ボタンでディスプレイ表示のレベル (1～125) を選びます。
2. 希望する番号のボタン(1～6)を押します。発音するストップのランプが点灯します。

4.11 トランスポーズ (移調)

トランスポーズはピッチを半音ずつ (-8から+8の範囲で) 移調します。トランスポーズの設定はディスプレイで確認できます。(Tr: ...)と表示されます。

Rom. Center Cr 0
Tr:0/440 M 1

1. TRANS.ボタンを押します。
2. - / + ボタンで、ピッチを設定します。
3. 移調を記憶させる場合は、TRANS.ボタンが点灯している間にENTERボタンを押します。

4.12 クレッシェンドペダル

クレッシェンドペダルを使うことで、とても静かなピアノシモから非常に大きなトゥッティまで、20 のレジストレーションを段階的に有効にすることができます。初期設定されている 20 段階のレジストレーションは変更することができます。「5.9.1 クレッシェンド」を参照してください。

クレッシェンドペダルの有効化

クレッシェンドペダルは初期設定で有効になっています。
ディスプレイにはクレッシェンドの段階 (0~20) が表示されています。この例では 9 です。

Rom. Cons.	Cr 9
Tr:0/440	M 1

クレッシェンドペダルから第二スウェルペダルへの変更

クレッシェンドペダルは、第二スウェルペダルとしても割り当てることができます。「5.9.2 エクスプレッションペダル」を参照してください。

クレッシェンドペダルが第二スウェルペダルとして設定された場合、元のクレッシェンドペダルの全機能が無効になります。この際は、ディスプレイにはクレッシェンドの段階に代わってオルガン音量が常に表示されます。

Rom. Cons.	85
Tr:0/440	M 1

4.13 クイックアクセス

クイックアクセスは、オルガンのある特定の機能を簡単に呼び出す機能です。

4.13.1 リバーブ設定

ENTER ボタン (または SET ボタン) と REV. ボタンを同時に押すと、リバーブの種類が表示されます。好みのリバーブをオルガン様式ごとに設定することができます。「5.2 リバーブ」を参照してください。

4.13.2 チューニング

ENTER ボタン (または SET ボタン) と TRANS. ボタンを同時に押すと、チューニングの設定ができます。「5.5 チューニング」を参照してください。

4.13.3 オーケストラ音色

ENTER ボタン (または SET ボタン) とオーケストラ音色ボタン (PANFL. または TRUMP.) のいずれかを同時に押すと、オーケストラ音色の鍵盤割り当てができます。「4.8 アクセサリー」と「5.3 オーケストラ音色」を参照してください。

5 ヨハネスメニュー

ヨハネスメニューでは様々なオルガンの機能が設定できます。

MENUボタンを押すと、ディスプレイにJohannus Menu: が表示されます。メニューを見るには、- / +ボタンを使います。表示されたメニューを選択するにはENTERボタンを押します。メニューのキャンセルや、ひとつ前に戻るにはMENUボタンを押します。メニューには次の項目があります。

項目		操作説明
Ambiance	アンビエンス	§ 5.1
Reverb	リバーブ	§ 5.2
Orchestra	オーケストラ音色	§ 5.3
Temperaments	音律	§ 5.4
Tuning	チューニング	§ 5.5
Headphones/Aux	ヘッドフォン/Aux	§ 5.6
Bass/Brilliance	ベース/ブリリアンス	§ 5.7
Demo Songs	デモ曲	§ 5.8
System Settings	システム設定	§ 5.9
Crescendo	クレッシェンド	§ 5.9.1
Expr. Pedals	エクスプレッションペダル	§ 5.9.2
Keyboards	キーボード設定	§ 5.9.3
Style Default	オルガン様式初期設定	§ 5.9.4
Chorus Control	コーラスコントロール	§ 5.9.5
Wind Distr.	風量	§ 5.9.6
Key Volumes	キーボリューム	§ 5.9.7
Aux-in Reverb	Aux-inリバーブ	§ 5.9.8
Display Contrast	ディスプレイコントラスト	§ 5.9.9
Datadump	データダンプ	§ 5.9.10
Reset Menu	リセットメニュー	§ 5.9.11
Version	バージョン	§ 5.9.12

5.1 アンビエンス (Ambiance)

アンビエンスは、コンボリヴェーションリバーブと連携して、教会内のどの位置でオルガンの音を聴いているかを選択できる機能です。オルガン演奏台、教会の前方、中央、後方の4種類から選択できます。

1. MENUボタンを押します。
2. ENTERボタンを押してアンビエンス機能に入ります。
アンビエンスの状態がディスプレイに表示されます。
3. - / + ボタンでアンビエンスを変更します。初期設定はCenter(中央)です。
4. ENTERボタンを押して確定します。
5. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Ambiance

Ambiance
Center (Def.)

Rom. Cons. Cr10
Tr:0/440 M 1

6. ディスプレイには選択したアンビエンスが表示されています。

5.2 リバーブ (Reverb)

12種類のコンボリレーションリバーブから選択できます。

1. 最初にリバーブを変更したいオルガン様式を選択します。
「4.3 オルガン様式」を参照してください。
2. MENUボタンを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイに Reverb を表示させます。
4. ENTERボタンを押します。現在のリバーブ (教会名と地名) がディスプレイに表示されます。
5. - / + ボタンで変更したいリバーブを選びます。
6. ENTERボタンを押して確定します。
7. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Reverb

Oude kerk
Amsterdam (Def.)

Notre Dam
Paris



ENTER(またはSET)ボタンを押しながらREV.ボタンを押すことでもリバーブメニューにアクセスできます。

5.3 オーケストラ音色 (Orchestra)

パンフルートとトランペットはそれぞれのボタンで別々にオン・オフできます。これらの音色は別の手鍵盤や足鍵盤に割り当てることができます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに Orchestrals を表示させます。
3. ENTERボタンを押します。ディスプレイの下段には楽器名が表示されます。- / + ボタンで楽器名を変更して、ENTERボタンを押して確定します。
4. 表示されている楽器を割り当てたい手鍵盤または足鍵盤を押し、ENTERボタンを押して確定します。
5. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Orchestra

Orchestra
Panflute

Panflute
Assigned: Great



ENTER(またはSET)ボタンを押しながらPANFLまたはTRUMP.ボタンを押すことでもオーケストラ音色メニューにアクセスできます。

5.4 音律 (Temperaments)

音律を設定します。下記の11種類から選択できます。

- 平均律 Equal (標準の音律)
- ヤング II Young II
- ヴァロットティ Vallotti
- キルンベルガー III Kirnberger III
- キルンベルガー II Kirnberger II

- ナイトハルトⅢ Neidhardt III
- ヴェルクマイスターⅢ Werckmeister III
- 1/6 ミーントーン 1/6 Meantone
- 1/5 ミーントーン 1/5 Meantone
- 1/4 ミーントーン 1/4 Meantone
- ピタゴリアン Pythagorean

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに Temperaments を表示させます。
3. ENTERボタンを押します。現在設定されている音律がディスプレイに表示されます。
4. - / + ボタンで、希望する音律(11種類)を選び、ENTERボタンを押して確定します。
5. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Temperaments

Temperaments
Equal

Temperaments
Kirnberger III



この設定は記憶されません。電源をオフにして再度オンにすると、平均律に戻ります。

5.5 チューニング (Tuning)

ピッチを変更します。426Hzから454Hzまで（標準＝440Hz）1Hz単位での設定が可能です。設定したピッチはディスプレイ(トランスポーズ表示の右)に表示されます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに Tuning を表示させます。
3. ENTERボタンを押します。現在設定されているピッチがディスプレイに表示されます。
4. - / + ボタンで、ピッチを変更し、ENTERボタンを押して確定します。
5. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Tuning

Tuning
440 Hz

Tuning
442 Hz



ENTER(またはSET)ボタンを押しながらTRANS.ボタンを押すことでもチューニングメニューにアクセスできます。

5.6 ヘッドフォン/Aux (Headphones/Aux)

このオルガンにはヘッドフォンと外部出力用の独立したボリュームとイコライザーが装備されています。ベースとブリリアンスは0 dBをフラットとして-6 dBから6 dBまで調整できます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに Headphones/Aux を表示させ、ENTERを押します。
3. ディスプレイに Volume が表示されます。ボリュームを変更する場合は、このままENTERボタンを押します。ベー

Johannus Menu:
Headphones/Aux

Headphones/Aux
Volume

スまたはブリリアンスを変更する場合は、- / + ボタンで Bass または Brilliance を選択してENTERボタンを押します。

4. - / + ボタンで値を変更します。Volumeは1%から100%まで変更できます。初期設定は85%です。BassとBrillianceは0.5 dB刻みで-6 dBから6 dBまで変更できます。
5. ENTERボタンを押して確定します。
6. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Headphones/Aux
Bass

Bass
0.0 dB

5.7 ベース/ブリリアンス (Bass/Brilliance)

このオルガンにはベースとブリリアンスの音量を、0 dBをフラットとして-6 dBから6 dBまで調整できる機能が装備されています。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに Bass/Brilliance を表示させ、ENTERを押します。
3. ディスプレイに Bass が表示されます。ベース音量を変更する場合は、このままENTERボタンを押します。ブリリアンス音量を変更する場合は、- / + ボタンで Brilliance を選択してENTERボタンを押します。
4. - / + ボタンで値を変更します。0.5 dB刻みで-6 dBから6 dBまで変更できます。
5. ENTERボタンを押して確定します。
6. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Bass/Brilliance

Bass/Brilliance
Bass

Bass
0.0 dB

5.8 デモ曲 (Demo Songs)

4種類のデモ曲を演奏することができます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに Demo Songs を表示させ、ENTERを押します。
3. 最初の曲名がディスプレイに表示されます。このままENTERボタンを押すか、- / + ボタンで曲名を変更してENTERボタンを押します。
4. - / + ボタンで、Play one demo (選択した1曲のみを演奏する)または Play all demo's (全曲を演奏する)を選びます。
5. ENTERボタンを押すと、選んだデモ曲の演奏がスタートします。ディスプレイにデモ曲の曲名と作曲者名が表示されます。
6. デモ曲を止めるには0ボタンを押します。
7. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

Johannus Menu:
Demo Songs

Demo Songs
Almachtige...

Almachtige..
Play one demo

5.9 システム設定 (System Settings)

よく使うメニューとは別に、システム設定のサブメニューが下記の通り用意されています。

5.9.1 クレッシェンド (Crescendo)

クレッシェンドペダルは20のプリセットされたレジストレーションから成ります。これらのレジストレーションは非常に静かなピアノシモから非常に大きなトゥッティまでの設定です。これらの設定は変更できます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Crescendo を表示させて、ENTERボタンを押します。
4. クレッシェンドの最初の段階がディスプレイに表示されます。
5. - / + ボタンで変更するクレッシェンドの段階を選択します。この例ではステップ5です。
6. レジストレーションを変更してENTERボタンを押し、新しいレジストレーションを保存します。

System Settings:
Crescendo

Crescendo
Cres. step: 0

Crescendo
Cres. Step: 5



ある段階でストップが削除されると、そのストップはそれより下の段階でも自動的に削除されます。ある段階でストップが追加されると、そのストップはそれより上の段階でも自動的に追加されます。



ステップ0は変更できません。

7. 更に変更が必要であれば、上記の手順5.と6.を送り返します。
8. MENUボタンを3回押して、ヨハネスメニューを終了します。

5.9.2 エクスプレッションペダル (Expression Pedals)

このオルガンはPEPC™を装備しています。PEPC™とは、「プログラム可能なエクスプレッションペダルの設定」のことで、この機能はそれぞれのエクスプレッションペダルを自分独自の設定にすることができます。

エクスプレッションペダルには2つの異なったタイプがあります。

スウェルペダル: ボリュームの増減により強弱をつけるペダルです。パイプオルガンでは、スウェルボックスのシャッターの開閉で実現している機能です。「4.2 エクスプレッションペダル」(10ページ)を参照してください。

クレッシェンドペダル: ストップ数の増減により強弱をつけるペダルです。「4.12 クレッシェンドペダル」(14ページ)を参照してください。



- a. 1つのエクスプレッションペダルには、複数パートのスウェルペダル機能を同時に設定可能です。
- b. 1つのパートは同時に1つのエクスプレッションペダルにのみ設定可能です。
- c. 1つのエクスプレッションペダルには、スウェルペダルとクレッシェンドペダルの同時設定はできません。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Expr. Pedals を表示させて、ENTERボタンを押します。
4. 第一エクスプレッションペダルがディスプレイ上に表示されます。
5. - / + ボタンで変更したいペダルを選びます。ここでは、例として Pedal 2を選びます。
6. ENTERボタンを押すと、ディスプレイ上に選択肢の内容が表示されます。
 - Gt/Pd: グレート鍵盤とペダル鍵盤用のスウェルペダル
 - Sw: スウェル鍵盤用のスウェルペダル
 - Cresc: クレッシェンドペダル
7. - / + ボタンで変更したい選択肢を選びます。ここでは、例として Swを選びます。
8. ENTERボタンを押します。カーソルが現在の設定の場所に飛びます。
9. - / + ボタンで設定を変更します。ここでは、例としてNoを選択します。
10. ENTERボタンを押して確定します。カーソルが左に戻ります。
11. 続けて他の選択肢の設定をする場合は、上記の手順7～10を繰り返します。またはMENUボタンを押してエクスプレッションペダルメニューに戻ります。
12. 続けて他のペダルの設定をする場合は、上記の手順5～11を繰り返します。またはMENUボタンを2回押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Expr. Pedals

Expr. Pedals
Expr. Pedal 1

Expr. Pedals
Expr. Pedal 2

Expr. Pedal 2
> Gt/Pd: No

Expr. Pedal 2
> Sw : Yes

Expr. Pedal 2
Sw : >Yes

Expr. Pedal 2
Sw : >No

Expr. Pedal 2
> Sw : No

5.9.3 キーボード設定 (Keyboards)

鍵盤の働き(反応)を設定します。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERボタンを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Keyboards を表示させます。
4. ENTERボタンを押すと、最初の鍵盤が表示されます。
5. - / + ボタンで設定する鍵盤を選びます。
6. ENTERボタンを押すと、カーソルが下段に移動します。
7. - / + ボタンで、鍵盤の働き(反応)を選びます。
 - Automatic: 鍵盤は High に設定されています。
オーケストラ音色が使用されるときは、自動的に Velocity に設定されます。
 - High: 鍵盤の発音位置が浅くなります。
 - Low: 鍵盤の発音位置が深くなります。

System Settings:
Keyboards

>Great
Automatic

Great
>Automatic

・Velocity: 発音はタッチに反応します。

8. ENTERボタンを押すと設定が保存され、カーソルが上段に戻ります。
9. 他の鍵盤も設定する場合は、6.に戻ります。
10. MENUボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。

>Great
Automatic

5.9.4 オルガン様式初期設定 (Style Default)

オルガンの電源を入れたときに選ばれるオルガン様式を設定します。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERボタンを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Style Default を表示させて、ENTERボタンを押します。
4. 初期設定のオルガン様式が表示されます。 - / + ボタンでオルガン様式を選択します。
5. ENTERボタンを押して確定するか、MENUボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Style Default

Style Default
Romantic

5.9.5 コーラスコントロール (Chorus Control)

コーラスは、パイプオルガンで発生する調律の僅かなずれを再現するものです。調律のずれにより広がりのある生き生きとした音になります。コーラスがオンかオフかを設定します。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERボタンを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Chorus Control を表示させて、ENTERボタンを押します。
4. 現在の設定が表示されます。 - / + ボタンでオンかオフかを選択します。
5. ENTERボタンを押して確定し、システムセッティングメニューに戻ります。
6. MENUボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Chorus Control

Chorus Control
(default) On

5.9.6 風量 (Wind Distribution)

風量機能では、コーラス・オン時とコーラス・オフ時の風量を設定します。風量が多いと調律のずれは小さくなり、風量が少ないと調律のずれは大きくなります。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERボタンを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Wind Distr. を表示させて、ENTERボタンを押します。
4. コーラス・オンの場合は、ディスプレイにコーラス・オン時

System Settings:
Wind Distr.

Wind Distr.
CH on: 88% Def

の風量が表示されます。 - / + ボタンで初期設定値 (88% Def.)を80%から100%の間で変更することができます。

5. コーラス・オフの場合は、ディスプレイにコーラス・オフ時の風量が表示されます。 - / + ボタンで初期設定値 (93% Def.)を80%から100%の間で変更することができます。

Wind Distr.
CH off: 93% Def

6. ENTERボタンを押して確定し、システムセッティングメニューに戻ります。
7. MENUボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。

5.9.7 キーボリューム (Key Volumes)

キーボリュームでは、ストップ (音色)ごとに各鍵の音量を調整します。
キーボリューム操作には次の3つがあります。

- Adjust / 調整
- Reset one stop / 1ストップのみリセット
- Reset ALL stops / 全ストップをリセット

調整 (Adjust)

調整機能では、各オルガン様式のストップごとに、各キーボリュームを設定できます。

1. 全ストップをオフにします。
2. オルガン様式を選択します。
3. MENUボタンを押します。
4. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
5. - / + ボタンでディスプレイ下段に Key Volumes を表示させて、ENTERを押します。
6. ディスプレイ下段に Adjust が表示されます。
7. ENTERボタンを押すと、Select a stop to adjust (調整するストップを選んで下さい) と表示されます。
8. 1つのストップを押して点灯させます。ディスプレイに press a key (鍵盤を押して下さい)と表示されます。
9. 任意の鍵盤を押したままにすると、ディスプレイに Key: と Vol: が表示されます。
10. - / + ボタンで希望する音量に設定します。
11. ENTERボタンを押して変更をセーブ (保存)します。
12. ディスプレイが確認を求めてきます。 - / + ボタンで No か Yes を選択します。
13. ENTERボタンを押して確定します。
14. MENUボタンを押してキーボリュームメニューに戻ります。
15. 変更をセーブしていない場合、ディスプレイに Discard changes? (変更を中止しますか?) と表示されます。変更を中止する場合は - / + ボタンで

System Settings:
Key Volumes

Key Volumes
Adjust

Select a stop
to adjust

Key:press a key
vol: -/+

Key: 3 C
vol: 83 -/+

Save changes?
No/Yes

Key Volumes
Adjust

Discard changes?
No/Yes

Yes を選んでENTERボタンを押します。

16. 変更をセーブする場合は - / + ボタンで No
を選んでENTERボタンを押します。

17. ENTERボタンを押すと、ディスプレイが Save
Changes? (変更をセーブしますか?) と表示されます。

Save changes?
No/Yes

18. - / + ボタンで Yes を選びます。

19. ENTERボタンを押して確定します。

Key:press a key
Vol: -/+

20. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。



同じ操作により、他のキーや他のストップの音量を変更することができます。

各ストップのリセット (Reset one stop)

リセットワンストップは、1つのオルガン様式に対し、各ストップの鍵盤音量を初期設定 (工場出荷状態) に戻すための操作です。

1. 全ストップをオフにします。
2. オルガン様式を選択します。
3. MENUボタンを押します。
4. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
5. - / + ボタンでディスプレイ下段に Key Volumes を表示させます。
6. ENTERボタンを押します。
7. - / + ボタンでディスプレイ下段に Reset one stop を表示させます。
8. ENTERボタンを押します。ディスプレイに Select a stop to reset (リセットするストップを選んで下さい) と表示されます。
9. 任意のストップをオンにします。
10. ディスプレイが確認を求めてきます。
- / + ボタンで No か Yes を選択します。
11. ENTERボタンを押して実行し、キーボリュームメニューに戻ります。
12. MENUボタンを2回押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Key volumes

Key volumes
Reset one stop

Select a stop
to reset

Reset this stop?
No/Yes

Key volumes
Reset one stop

全ストップのリセット (Reset ALL stops)

リセットオールストップは、1つのオルガン様式に対し、全ストップの鍵盤音量を初期設定 (工場出荷状態) に戻すための操作です。

1. オルガン様式を選択します。
2. MENUボタンを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を

表示させて、ENTERを押します。

4. - / + ボタンでディスプレイ下段に Key Volumes を表示させます。
5. ENTERボタンを押します。
6. - / + ボタンで、ディスプレイに Reset ALL stops を表示させます。
7. ENTERボタンを押します。
8. ディスプレイが確認を求めています。 - / + ボタンで No か Yes を選択します。
9. ENTERボタンを押して実行し、キーボリュームメニューに戻ります。
10. MENUボタンを2回押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Key Volumes

Key volumes
Reset ALL stops

Reset ALL stops?
No/Yes

Key volumes
Reset ALL stops

5.9.8 Aux-inリバーブ (Aux-in Reverb)

Aux-inリバーブ機能では、外部入力された音に対するリバーブ(残響)のかかり具合を調整します。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Aux-in Reverb を表示させて、ENTERを押します。
4. リバーブの値が表示されます。 - / + ボタンで0%から100%まで調整できます。
5. ENTERボタンを押して確定するか、MENUボタンを押して変更せずに戻ります。
6. MENUボタンを2回押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Aux-in Reverb

Aux-in Reverb
0%

5.9.9 ディスプレイ コントラスト (Display Contrast)

ディスプレイ表示の濃淡が調整できます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Display Contrast を表示させます。
4. ENTERボタンを押します。
現在設定されているコントラストレベルが表示されます。
5. - / + ボタンで希望するコントラストレベルを1から15の間で選びます。
6. ENTERボタンを押して確定し、システムセッティングメニューに戻ります。
7. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Display Contrast

Display Contrast
Level: 9

5.9.10 データダンプ (Datadump)

データダンプは、オルガンから記録機器(例えば、シーケンサー)に、MIDI OUT端子からオルガンの設定を送信する操作です。「3.4 外部接続」を参照して下さい。送信できる設定は、キャプチャーメモリーの内容と、キーボリュームを除くメニューの設定です。

オルガンからのデータ送信

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Datadump を表示させます。
4. ENTERボタンを押します。Press ENTER がディスプレイに表示されます。
5. 記録機器が正しく接続されていることを確かめます。
6. ENTERボタンを押します。データが転送されている間、Sending data . . . がディスプレイに表示されます。データ転送にしばらく時間がかかります。

System Settings:
Datadump

Datadump
Press ENTER

Datadump
Sending data...



Sending data... がディスプレイに表れている間はオルガンを操作しないでください。

7. データダンプが終了すると、ディスプレイはヨハネスメニューを表示します。
8. MENUボタンを押してヨハネスメニューを終了します。

オルガンへのデータ送信



オルガンへのデータ送信は、デモ曲を鳴らしているときを除き、オルガンの電源が入っていればいつでも可能です。



ヨハネスオルガンのデータのみ送信するようにしてください。関係のないデータを送信するとオルガンの機能を損なう恐れがあります。

1. 記録機器(例えばシーケンサー)が正しく接続されていることを確かめます。
2. データファイルを送信します。データファイルが受信されていることを示すメッセージがディスプレイに表示されます。
3. 受信が完了するとディスプレイには自動的にメインスクリーンが表示されます。

uploading stored
data

5.9.11 リセットメニュー (Reset Menu)

リセットメニューでは、様々な設定を工場出荷時の初期設定に戻すことができます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を

表示させて、ENTERを押します。

3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Reset Menu を表示させます。
4. ENTERボタンを押します。リセットメニューの最初の項目がディスプレイ下段に表示されます。
5. - / + ボタンでリセットしたい項目を選びます。
 - Expr. Pedals: エクスプレッションペダルの設定を初期設定に戻します。
 - Memory default: キャプチャーメモリーを消去します。
 - Orchestrals default: オーケストラ音色を初期設定に戻します。
 - Preset default: プリセットを初期設定に戻します。
 - Reverb default: リバーブとアンビエンスを初期設定に戻します。
6. ENTERボタンを押します。
ディスプレイが確認を求めてきます。
7. - / + ボタンで No か Yes を選択します。
8. ENTERボタンを押すと、Reset (リセット) が実行されリセットメニューに戻ります。
9. MENUボタンを2回押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Reset Menu

Reset Menu
Memory default

Memory default
No/Yes

Reset Menu
Memory default

5.9.12 バージョン (Version)

このオルガンで使われているソフトウェアのバージョンナンバーが表示されます。

1. MENUボタンを押します。
2. - / + ボタンでディスプレイに System Settings を表示させて、ENTERを押します。
3. - / + ボタンでディスプレイ下段に Version を表示させます。
4. ENTERボタンを押します。
ソフトウェアのデータがディスプレイに表示されます。
MENUボタンを2回押してヨハネスメニューを終了します。

System Settings:
Version

9881 XXX 7.1.x
OC X XX XX XX

6 メンテナンス、トラブルシューティング、保証

6.1 メンテナンス

	メンテナンス	頻度
キャビネット	クリーニング方法は § 6.1.1 を参照。	必要に応じて
鍵盤	クリーニング方法とキズの除去については § 6.1.2 を参照。	必要に応じて

6.1.1 キャビネットのお手入れ



オルガンのキャビネットには家具用ポリッシュやチークオイルは使わないでください。
また、直射日光はオルガンのキャビネットを退色させる場合があります。

1. キャビネットは湿った布で汚れを落します。
2. 糸くずが出ない、乾いた布で拭き取ってください。

6.1.2 鍵盤のお手入れ

鍵盤は合成樹脂製です。



汚れを取るために塗料のシンナーやアセトンなどの侵食性のある洗浄剤は使わないでください。

1. 鍵盤は湿った布で汚れを落します。
2. 糸くずが出ない、乾いた布で拭き取ってください。
3. 引っかきキズは車のワックスでとります。

6.2 不具合

不具合	原因	処置
足鍵盤の音が出ない。	足鍵盤のマグネットとフロントカバーの内側のリードスイッチとの接触がうまくつながっていない。	足鍵盤を正しくセットし直してください。 § 2.1 参照。

6.3 保証

保証内容は保証書に説明されているとおりです。ヨハネス社の認めていない者が、オルガンを改造・修理した場合、保証は無効となります。

7 MIDI (ミディ)インプリメンテーション

7.1 MIDI インプリメンテーションチャート

JOHANNUS Organs

Date: September 2008

MIDI Implementation chart

Version 1.00

Functions		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changes	See MIDI Specs See MIDI Specs	See MIDI Specs Y ¹	See MIDI Specs
Mode	Default Messages Altered	Mode 3 N *****	Mode 3 N N	
Note Number	True Voice	36-96 *****		
Velocity	Note ON Note OFF	9nH v=1~127 9nH (v=64) 9nH (v=0)	9nH v=1~127 9nH v=1~127 9nH v=0, 8nH v=*	Velocity ON Velocity OFF *=irrelevant
After Touch	Keys Channels	N N		
Pitch Bend		N		
Control Change	7 11 100/101/6 100/101/6	Y Y Y Y		General Volume Expression Pedals Pitch Transpose
Program Change	:True#	See MIDI Specs *****	See MIDI Specs See MIDI Specs	See MIDI Specs See MIDI Specs
System Exclusive		See MIDI Specs	See MIDI Specs	See MIDI Specs
Common	:Song Pos :Song Sel :Tune	N N N	N N N	
System Real Time	:Clock :Commands	N N	N N	
Aux	:Reset All Controller :Local ON/OFF :All Notes OFF :Active Sense :Reset	N N Y N N	N N Y N N	
Notes		¹ Depends on number of divisions		

Mode 1: OMNI ON, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO

Y=YES

Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 4: OMNI OFF, MONO

N=NO

7.2 MIDI 仕様

ここでは MIDI インプリメンテーションチャートの仕様を詳しく説明します。

初期設定 基本チャンネル(送信/受信)

1: Great 2: Swell 3: Pedal 12: Stops

コントロールチェンジ(送信)

Controller 7 (07h) ボリューム、可変値: 40 (28h) – 127 (7Fh)

Controller 11 (0Bh) エクスプレッションペダル、可変値: 55 (37h) – 127 (7Fh)

Controller 6 (06h) ピッチ、可変値: 28 (1Ch) – 99 (63h)

ピッチ: 64 (40h) = A = 440Hz.

ピッチの適用:

LSB 100 (64h) 1 (01h) and the MSB 101 (65h) 0(00h).

トランスポーズ、可変値: 56 (38h) – 72 (48h)

トランスポーズ: 64 (40h) = a = 440Hz

トランスポーズの適用:

LSB 100 (64h) 2 (02H) and the MSB 101 (65h) 0(00h).

コントロールチェンジ(受信)

Controller 7 (07h) ボリューム、可変値: 0 (00h) – 127 (7Fh)

40(28h)以下の値は、40 (28h)とみなします。

Controller 11 (0Bh) エクスプレッションペダル、可変値: 0 (00h) – 127 (7Fh).

55 (37h)以下の値は、55 (37h)とみなします。

プログラムチェンジ(送信/受信)

オルガンストップ: ストップの番号とストップの並びにより決定されます。

システムエクスクルーシブメッセージ(送信/受信)

各エクスクルーシブメッセージは、大部分が同じように見えます。1～7バイトと最後のバイトは全て同じです。

8番目のバイトだけが変ります。ヨハネスが普通に使用しているエクスクルーシブメッセージは: F0 00 4A 4F

48 41 53 XX F7 (16進法)で、8番目の値のみが意味を持って外部に送信されます。

全ストップオフ

全ストップオフのエクスクルーシブコードは7Fです。このエクスクルーシブコードは、MIDIシーケンサーに対し 0 ボタンを長く押した場合に出力されます。全ストップオフのコードを受取った場合、楽器の全ストップがスイッチオフとなります。

他のMIDIコード(送信)

0 ボタンが押された場合は、all stops off (全ストップオフ) と全ての音量セッティング情報がMIDI OUTから送信されます。

JOHANNUS 総輸入元

株式会社 河合楽器製作所

本社 古典楽器担当

〒430-8665 浜松市中央区寺島町 200

Tel:053-457-1266 Fax:053-457-1303

東京オフィス

〒140-0002 品川区東品川 4-10-27

Tel:03-6718-4169 Fax:03-6712-8125